

43 三忠碑 (長田・長田)

伊達政宗は宿敵葦名氏の所領会津を攻略すべく、天正十七年(1589)旧暦六月五日、磐梯山麓の摺上原に軍を進めました。この地の戦いに葦名義広の家臣金上盛備、佐瀬種常・常雄父子の三士は、主君の危急を救い、討死しました。

その忠誠のさまを後世に伝えるために八代会津藩主松平容敬公は、藩の儒学者高津泰に命じて撰文し、全文437字を唐の名筆家で熱血忠義の人物である顔真卿の書体から山内晋に集めさせてこれを刻ませ、嘉永三年(1850)十二月に建立しました。また周囲には旧二本松街道の松並木も残されています。

(町指定史跡)



44 平盛胤の墓 (八幡・水上)

亀ヶ城最後の城主十四代猪苗代盛胤は、葦名累代の宗家を覆し父盛國が伊達政宗に内応しようとしたとき度々父を諫めましたが、逆に罪をさせられ追い出されました。摺上原の戦いでは葦名方として参戦しましたが、父の旗印をみて一旦退き、再び伊達の陣へ攻め込みましたが深手を負いました。葦名家滅亡後は蒲生氏にも仕えず、寛永十年(1641)内野村で七十七才の生涯を閉じました。村ではその墓の荒廃を防ぐため、文化二年(1805)より年々夫の役を免除し、守り伝えています。

(町指定史跡)



45 五輪塔 (五輪)

猪苗代盛胤の遺徳を偲び、百目貴村の臼井平右衛門が願主となって、明暦四年(1658)七月に建立されたものです。大小6基の五輪塔で、一番大きいものは高さ3mもあります。以前は旧二本松街道沿いでしたが、国立磐梯青年の家建設の際、その入口付近に移されました。

(町指定重要文化財)



摺上原合戦図